

議会だより

ワットサム

※「ワットサム」とはアイヌ語でワット（にれの木）・サム（傍）という意味で、わっさむの由来です。

第88号 2017年8月4日



写真

みんなで楽しく
恵みが丘 生きがいサロン
（表紙説明は13ページ）

- p2 大学生と意見を交換～三笠山大学～
- p4 こんなことが決まりました～農業委員決まる～
- p7 町政を問う。 一般質問に4議員が登壇
- p12 視察レポート。 福祉住宅の未来像を学ぶ！
- p14 町民インタビュー聞かせて 塩狩太鼓保存会

大学生と意見を交換

～三笠山大学と議会との懇談会～



7月21日に、公民館恵み野ホールにおいて、50名の参加を得て三笠山大学と町議会との懇談会を開催しました。

内容は、各委員会から議会活動の報告をさせていただき、その後参加された皆さんからご意見等を伺いました。

議会からはこんな報告をしました

■総務福祉常任委員会

- 財産の管理状況について
- ふるさとまちづくり
 応援寄附金について
- 福祉施設について

■産業教育常任委員会

- 公営住宅について
- 簡易水道整備事業について
- 農業委員会委員について
- 大成小川の改修について
- 主要作物の作付け動向について



意見交換

◇若草団地

Q 若草団地の改修をどう進めていくのか。

A 平成31年4月以降に解体していく予定。

◇三和牧場

Q 三和牧場の植林を早くしてもらいたい。

A 早く植林するように、行政に伝える。

●産業振興課へ確認
分収造林の契約に向けて林野庁と協議を進めている。

◇福祉住宅

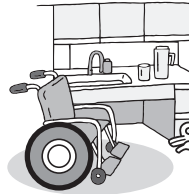
Q サービス付高齢者向け住宅の視察報告を受けたが、自分も怪我をして必要性を感じたので、是非、進めてもらいたい。

A どのような施設で、どのようなサービスを

求めているのか、アンケートや意見交換など必要だと考えている。

※サービス付高齢者向け住宅とは？

バリアフリー対応の賃貸住宅で、高齢者や要介護・要支援認定を受けている方が入居できます。生活相談員が常駐し、入居者の安否確認や様々な生活支援サービスを受けることができます。



●紙面の都合により、内容の簡略化やすべてのご意見が掲載できておりませんのでご容赦願います。また、多くのご意見をいただきましたことに改めて感謝申し上げます。

参加者アンケート集計結果（抜粋）

●あなたの年代と性別は。

区分	男	女	未回答	合計	率
60代	1	2	0	3	8.1%
70代	11	15	0	26	70.3%
80代	5	2	1	8	21.6%
合計	17	19	1	37	100.0%

●議員に期待する役割について、どのようにお考えですか。

住民の要望を把握し、町政に反映させる	27	45.8%
町政へのチェック機能を果たす	16	27.1%
住民に町政に関する情報を伝える	13	22.0%
その他	0	0.0%
未回答	3	5.1%
合計	59	100.0%

※複数回答あり

●議会だよりの感想・意見をお聞かせください。

①いろいろ研究しながら頑張っていると思います。
②ほぼ詳しく記述されていて良いかなと思います。
③楽しく拝見しています。

●このような懇談会を今後も行うべきだと思いますか。

継続したほうが良い	31	83.8%
しなくても良い	1	2.7%
どちらでもよい	4	10.8%
未回答	1	2.7%
合計	37	100.0%

●町議会に対するご意見・ご要望など。

①この町をどうしたら良いか、常に考えていただきたい。
②議会と町の間でもっと建設的な意見をぶつけ合って高齢化問題に良い方向付けを。

（参加者50人中37人回答
回答率 74%）

6月 定例会

農業委員決まる

6月定例会（第2回定例会）は、平成28年6月22日から23日にかけて開催され、条例改正や補正予算が審議されました。

また、一般質問では4人の議員が登壇し、意見書3本を可決して閉会しました。なお、今定例会の傍聴者は延べ25人でした。

【地域の農業者等からの推薦（50音順）】



▲西川直哉氏
(中和)



▲高原成徳氏
(北原)



▲菊地敏仁氏
(北町)



▲青塚 貢氏
(大成)



▲八島邦彦氏
(朝日)



▲村岡敏一氏
(三和)



▲三田精一氏
(菊野)



▲真鍋隆裕氏
(西和)



▲二口哲也氏
(川西)



▲中澤由男氏
(三笠)



▲高橋かおり氏
(中和)



▲荒瀬あつ子氏
(北町)



▲鈴木隆紀氏
(三笠)



▲兼丸幸二氏
(東丘)

【個人の推薦】

【応募（50音順）】

【団体からの推薦（50音順）】

【農業委員会委員の任命について】
農業委員会等に関する法律の改正により、委員の構成については、これまでの農業協同組合・土地改良区・議会からの選任制及び選挙制の併用から、公募による候補者を町議会の同意を得て町長が任命する方法に改正されました。
今回は募集定数と同数の14名の応募があり、農業委員候補者審査委員会において候補者全員の資格要件が満たされていることが確認され、今定例会で上程されました。
議決に際しては、議長を除く9名の議員により無記名投票を実施し、投票用紙には、不同意とする場合のみ×印を記入することとしました。
立会人 酒向 勤、金谷 浩幸のもと開票を実施した結果、賛成多数で上記のとおり委員を任命することに同意しました。（任期3年）

カントリーエレベーター小麦受入へ～条例改正～

【南宗谷線地区米穀類乾燥調製貯蔵施設設置条例の一部改正】

（全員賛成可決）

カントリーエレベーターにおいて、新たに小麦の受入を開始するにあたり、小麦の利用料金の上限の設定及び文言の整理をする改正を可決しました。



▲小麦の受入が始まるカントリーエレベーター

【国民健康保険税条例の一部改正】

（全員賛成可決）

軽減判定基準額を5割軽減は被保険者1人につき26万5千円から27万円

に、2割軽減は被保険者1人につき48万円から49万円に引き上げる改正を可決しました。

【特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部改正】

（全員賛成可決）

支給認定証の手続きの簡略化を図るため、任意交付とする改正を可決しました。

【特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業に係る利用者負担等に関する条例の一部改正】

（8名賛成可決）

町民税非課税世帯、3歳未満児などの2人目の保育料無償化など、子育て家庭の負担軽減を拡充する改正を可決しました。

※その他2件の条例改正を可決しました。

ドローン導入計画でPRへ 補正予算へ



▲観光PRなどで導入されたドローン

【一般会計補正予算】

（全員賛成可決）

総額2,366万6千円の増額補正を可決しました。

観光費の備品購入費では、景勝地の動画発信による観光PRや、災害時の現況把握などをするためのドローン購入による増額補正。

生活応援・商工業活性化対策事業補助ではわっさお活用商品券（プレミアム付き）の発行に伴う増額補正。

住宅建設費では、大通りの公営住宅建設のため、寄付予定地に隣接す

補正予算へ

る用地の取得に伴う増額補正などを可決しました。

人事

【固定資産評価審査委員会委員の選任】

（全員賛成同意）

今野恵一氏（三笠）の選任に同意しました。

今野氏は平成26年から選任されており、今回で2期目となります。（任期3年）



▲今野恵一氏

財産取得

平成24年度から借上げている中学校教育用パソコン備品一式の借上げ期

間満了に伴い、新たにこれらを購入することを可決しました。

（全員賛成可決）

報告

【和寒町土地開発公社の経営状況】

経営状況について、報告がありました。

【和寒町一般会計繰越明許費繰越計算書】

総額7,502万7千円を本年度に繰越する報告がありました。

【和寒町簡易水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書】

総額2億5,362万9千円を本年度に繰越する報告がありました。

【和寒町公共下水道事業特別会計繰越明許費繰越計算書】

総額4,201万2千円を本年度に繰越する報告がありました。

○平成29年度東丘浄水場建設工事			
・ 建築主体	株式会社近藤組	契約金額	2億5,542万円
・ 機械設備	新栄クリエイト株式会社（札幌市）	契約金額	5億6,386万8千円
・ 電気設備	武電機株式会社（土別市）	契約金額	1億1,350万8千円
○平成29年度東丘浄水場配水池建設工事			
・ 建築主体	株式会社近藤組	契約金額	1億7,053万2千円

【工事請負契約の締結】
左記の表のとおり、工事請負契約の締結について可決しました。

工事請負契約

みんなの声を国政に

公益に関わる次の3件について、議員から意見書案が提出されました。
第2回定例会において審議の結果可決され、関係行政省庁などに提出されました。

義務教育費国庫負担制度堅持・負担率1/2への復元、教職員の超勤解消と「30人以下学級」の実現、「子どもの貧困」解消など教育予算確保・拡充と就学保障に向けた意見書

提出者：伊藤 明 賛成者：佐々木広行、中原 浩一、金谷 浩幸 採決結果：可決（全員賛成）
提出先：内閣総理大臣、衆議院議長、総務大臣、財務大臣、文部科学大臣、内閣府特命大臣（地方創生担当）
（要旨）

国においては義務教育費無償、義務教育費国庫負担制度の堅持、当面負担率1/2への復元、教職員定数改善など、教育予算の確保・拡充、就学保障の充実をはかるよう意見する。
（全7項目）

平成29年度北海道最低賃金改正等に関する意見書

提出者：金谷 浩幸 賛成者：佐々木広行、中原 浩一、伊藤 明 採決結果：可決（全員賛成）
提出先：北海道労働局局長、北海道地方最低賃金審議会会長
（要旨）

北海道最低賃金の引き上げは、ワーキングプア（働く貧困層）解消のための「セーフティネット」の一つとして最も重要なものである。最低賃金が上がらなければ、その近傍で働く多くの方の生活はより一層厳しいものとなり、ひいては北海道経済の停滞を招くことにつながりかねない。
よって、平成29年度の北海道最低賃金の改正にあたり、強く要望する。
（全3項目）

地方財政の充実・強化を求める意見書

提出者：中原 浩一 賛成者：佐々木広行、金谷 浩幸、伊藤 明 採決結果：可決（全員賛成）
提出先：内閣総理大臣、内閣官房長官、総務大臣、財務大臣、経済産業大臣、
内閣府特命担当大臣（地方創生規制改革担当）、内閣府特命担当大臣（経済財政政策担当）
（要旨）

2018年度の政府予算と地方財政の検討にあたっては、国民生活を犠牲にする財政とするのではなく、歳入・歳出を的確に見積もり、人的サービスとしての社会保障予算の充実と地方財政の確立をめざすことが必要であることから、意見する。
（全7項目）

町政を 問う。

一般質問

和寒町では1人につき60分の制限時間が設けられ、質問の回数は無制限で行われます。

一般質問とは、議員が町の行財政全般にわたって、執行機関（町長・教育長）に疑問点をだし、所信の表明を求めるものです。
※紙面の都合上、概略のみ掲載しています。

質問議員	質 問 事 項	ページ数
窪田 裕二議員	①観光資源を活用した和寒町の今後のビジョンは	8ページ
谷口 勝弘議員	①特別養護老人ホームの入所制限の影響と軽度者の受け皿は	9ページ
石田 利美議員	①JR和寒駅と周辺整備は ②人口減少防止対策は	10ページ
佐々木広行議員	①安心して暮らすことのできる町づくりの具体策は ②公共施設等の整備については ③本町での商工業の振興促進策は	11ページ

問 観光資源を活用した 和寒町の今後のビジョンは

答 交流人口の増加に向けて取り組む



窪田裕二議員

塩狩峠周辺を活用した観光資源の活用方法について

平成27年度「和寒町着地型観光推進協議会」が発足。

平成28年度「塩狩峠・夫婦岩周辺整備検討委員会」が発足し提案書を提出。

平成29年度は、提案書に基づき、実施設計を行うと伺っている。

また、平成28年度から広域（1市3町）での「着地型観光推進協議会」発足し、今年の5月には、各首長参加のもと台湾視察。

各市町村もこれまで以上に観光推進に力を入れると考えるが、和寒町の観光資源を生かした活用方法と今後のビジョンについて伺う。

奥山町長

北海道観光入込客数調査で和寒町の順位は道内自治体の中でも下位の位置でもあり、人口減少問題の他に交流人口の増加に向けても取り組む必要がある。

そのため町としては、「和寒町着地型観光推進協議会」

の設立や特産品の販売促進事業、本年度から、「塩狩峠・夫婦岩周辺整備」において調査設計を予定している。

また、1市3町での広域的な着地型観光の推進も踏まえ、近隣自治体と連携しながら進めていく考えである。

○再質問

今回、ドローンを購入し発展的なものが予想されるが、29年度、「和寒着地型推進協議会」の今後の事業計画は。

産業振興課参事

5月に「コープさつぼろ」この春ツアーの実施、札幌工スタでの食と観光PR事業、札幌イタリアンシエフとの食のコラボや、料理教室の開催など考えている。

さらに、フェイスブックや今回の補正で上程しているドローンを活用し、積極的な情報発信をしていきたい。

また、外国人観光客の取り込みもしなければならぬが、下地ができていないため、受け入れ態勢を整えたい。

○再質問

「塩狩峠・夫婦岩周辺整備」をする際に多くの財源が必要だがどう考えているか。

奥山町長

提案書の中でも、なるべくハード部分ではお金を掛けないうつといった議論も出されている。

しかし、トイレなど最低限必要とされる建物や夫婦岩までの道路整備など、それらに見合った地域振興補助金など活用しながら進めていく。

○再質問

北海道JR経営の問題が目ざれているが、和寒町としても塩狩駅閉鎖なども考えられる。

また、観光地としての柱になっているが和寒町として塩狩駅を守っていくのか。

奥山町長

三浦綾子記念館は、財団と共同で建てた経緯があり、これから大切に守る必要があると考える。

また、昨年は「塩狩峠・50

周年記念事業「フットパス」も行われ、今年度も開催予定でもある。

和寒町としては、これからもPRする考えであるが、昨年11月からJR側から正式に維持困難線という問題が出てきた。

その中でも自治体が自ら駅を整備し管理するなど、行っている自治体もあり、和寒町としても今後ありえない話ではないと考える。

しかし、必要性としては、まずは「生活の足」として考え、広域的には「観光の足」として守るべきと考える。

それらも含め、地域自治体と連携しながら、「国・道・JR」とも協議する必要があると考える。



▲重要な観光資源であるJR塩狩駅

谷口勝弘議員



問 特別養護老人ホームの入所制限の影響と 軽度者の受け皿は

答 第7期介護保険事業計画の策定に向けて、
さらに検討を

特養入所制限の影響は

特別養護老人ホームの入所が平成27年から、原則として介護度3以上となり、利用者の平均介護度の重度化が進み、職員の負担が増すと思われるが、どのように対応しているのか。

保健福祉課参事

27年度には、平均介護度が3.69。29年度は、4.06になっており、当然介護員への負担は増えている。

いろいろな面で、芳生苑全体に影響が出てきており、できるだけ快適に入所ができるように、それぞれ西棟、東棟含めてユニットを組み合わせながらその人に合った良い対応ができるかどうか、常に追求しながら現在は進めている。

○再質問

行政報告の中に、芳生苑の不適切な対応とあったが、平均介護度の重度化は、その原因になってくるのではないか。

保健福祉課参事

不適切な対応の部分については、確かに重度化も原因の一つではあると思うが、そればかりではなく、ベテラン職員と若い職員との伝達、意思疎通において、下の者の意見が通らない部分も要因になっている。

去年から和寒町が派遣した2名が意思疎通を図るようにしてきており、介護職員の方から活発な意見が出されて、活気が出てきている。

中間施設も含めた軽度者の受け皿をどう考えているのか

軽度者が、サービスを求めて町外に流出していると考えているが、和寒町では具体的にどのような対策を採るのか。

奥山町長

そういった方がどの程度いるのか、しっかり調査をしないと、その対象者というのが出てこないと思っている。

○再質問

まだ調査していないとも受け取れるが、和寒町は軽度者の受け皿としての中間施設をどの様に考えているのか。

奥山町長

何が中間施設なのかは、誰も答えを持っていない。

例えば、訪問介護や、通所型のサービスを利用している方たちが、中間施設を必要としている人ではないか。

だとすれば、サービスを提供している事業者たちの意見というのは非常に大きなものがある。

例えば、その施設を誰がやるのか、スタッフをどう確保するのか、「そもそもどういうものを作るか」というのがないと、体制を作ることができない。

現状としての課題を分っているのは、現場で働いている方々だ。

現場の意見を第7期の介護事業計画に反映できるようにしたい。

○再質問

第7期の事業計画書は、奥山町長の考え方を入れて、平成30年度から自分が、この中間施設の問題も解決してく、という意思表示が無ければならないと思うが。

奥山町長

首長が独断で考えたことを、福祉施策に及ぼして、上手くいくなんてことはない。

第7期の計画を作る際に、例えば中間施設に特定した議論でも構わない。

それが皆さんのこれまでの知見や、ノウハウ、また今までで考慮された課題を含めて、積み上げていった中で、和寒町にこれが必要だというものの方向性を示してくださった中で、最終的に判断したい。



問 JR和寒駅と周辺整備は 答 財源を確保しつつ環境も含めて検討していく

問 人口減少防止対策は 答 町民が住んで良かったという町づくりに努力していく

石田 利美議員



まちの駅を作る考えは

JR和寒駅前には、国道40号と道道鷹栖線、幌加内線と合流する所である。

和寒駅前に、道の駅、まちの駅を作り、奥山町長の考えている着地型観光の一貫として、また、町民の憩い場としての施設を発想し作る考えはあるのか。

奥山町長

道の駅、町の駅の機能は、地域への来訪者にトイレや休憩場所を提供し、観光案内等様々な情報を発信することは、両駅とも同じであるが、道の駅では、休憩所の設置、運営に多額の投資が必要となるほか、民間単独では設置できないなどの制限がある。

一方、まちの駅では、人やテーマ、まちをつなぐ拠点としての位置付けで、公共施設だけでなく商店街の店舗などにも設置が可能で、既存の設備を利用した場合は設置、運営費が少額となるなどのメリットのほか、情報発信基地

としての役割を担っているところが数多い。

町としては、引き続き、地元協議会における検討に参画しながら、道の動きや国の支援策などを見極めながら、対応していく。

○再質問

駅前にまちの駅を作ってもイレも作り、和寒町の特産品の販売や、軽食的な物の販売など、観光の発信にはしては。

または、公民館にあるSLを和寒駅前に移動するアイデアもあると思うが。

奥山町長

JRの駅がまちの駅の役割も出来ないのかも含めて、検討するべきではないかと受け止めている。

JRの駅を活用したまちの駅も、検討する材料にできるかと思う。

道なり国の動きを見極め、有利な財源を確保しつつやれる環境も含めて検討していく。

人口減少防止対策は

和寒町は、一次産業の町であり、なかなか雇用の場がなく少子高齢化が進んでいる。

奥山町長の新たな人口減少防止対策は。

奥山町長

昨年1月に策定した和寒町まち・ひと・しごと創生総合戦略に掲げた4つの基本目標のもと、各種事業を推進しているところである。

本町においては、高齢化の進展に伴って亡くなられる方が増える一方で、近年、出生数は横ばいの状況となっており、人口減少が進んでいる。



▲ JR 宗谷本線 和寒駅

今後も住み続けたい、住んで良かった、と思っていただけでなくことと、町外の方々に町の魅力を積極的に発信し続けて行くことで人口減少に歯止めをかけられるよう努力する。

○再質問

町村合併の考えは。

奥山町長

平成17年に、先輩方がいろいろと苦労されて、合併議論が単独でいくという方向になつて以来、合併議論はない。現時点では考えていない。

○再質問

町外から通勤している事務職員に対して、どう考えているか。

奥山町長

基本的に人事は適材適所であり、居住地は関係ないと思う。

ただし、管理職になれば、町民の危機管理などの部分では、基本的に和寒町に住むことが当然望ましいと考える。

佐々木広行議員



問 安心して暮らすことのできる町づくりの具体策は
答 それぞれの課題には前向きに検討していく

問 本町での商工業の振興促進策は
答 各種条例などについても検討していく

安心して暮らすことのできる町づくりの具体策は

先般の一般質問の中で『安心して暮らすことのできるまちづくり』の答弁として、町立病院の安定した運営、芳生苑などの高齢化施設や中間施設の整備などが課題であるとのことであったが、課題解決に対して具体的にどのように進めているのか。

また、進捗状況を踏まえての所信は。

奥山町長

病院長や関係者の協議の結果、早期の実現は難しいが、現行の医師体制に加え、若手の内科常勤医師が確保できれば、内視鏡検査体制の充実による収入の増や、当直夜勤体制の経費節減が期待されるとの考えである。

なお、一般病床のあり方や療養病床、有床診療所の可能性なども踏まえた様々な観点から検討を進めているところであり、町立病院に係る改革プランの策定に努めている。芳生苑については、建設か

ら40年が経過し経年劣化により、暖房機能や給排水設備など施設運営に直接影響を及ぼすような大規模改修が想定されることや、介護サービスを提供していくうえで、課題となっている人材の確保も含め、どのような機能を持った入居型のサービス、いわゆる中間施設が本町に必要ななど町内介護サービス事業者の方々と検討していく。

公共施設等の整備については

昨年は、平成28年10月20日が根雪となり融雪は4月上旬で早かったものの、公的施設等に被害がなかったのか、また改修する施設はあるのか。

奥山町長

冬期間の積雪による公共施設への被害を防止するため、所管課による定期的な施設の確認や屋根の雪下ろしなどを実施している。

除雪による道路や駐車場の縁石・柵など、例年発生している補修以外には、特別な補

修あるいは改善はなかった。

○再質問

各自治会に公園などがあるが、その中で遊具を持っているところがある。

一冬越えた時に、安全性はどうか確認しているのか。

建設課長

市街地の中にも公園がいくつかあるが、冬支度をしており春になったら、テントなどを撤去し一つ一つ点検をして解放している。

本町での商工業の振興促進策は

安倍内閣の経済政策において『3本の矢』の効果で景気対策が期待されていたが、地方においては人口減や高齢化等によって事業の廃止など、都市との地域格差がますます深刻化し、地方経済にとって厳しい状況が続いてきている。

本町での商工業の振興促進策はどのように考えているのか。

奥山町長

本町商工業の振興策として、新たな活動を応援するため、商工業新規就業対策事業補助など、また活活商品券に取り組み地元消費を促進している。

○再質問

和寒町起業化支援事業補助金の絡みでの規則では、借入した資金の返済期間が短いこともあり見直す必要がある。

商工会から小規模企業振興基本条例の制定の要望がある。協議制定が必要と考えるが。

産業振興課長

小規模企業振興条例等の制定については、いろいろな政策を実施しているので、制定している他の市町村のことも参考にして制定していく。



視察レポート

福祉住宅の未来像を学ぶ!

視察期間：平成29年7月5日



▲奈井江町立病院（3階にサ高住「あんしん」がある）

炭鉱で栄えた奈井江町は、昭和四十八年の閉山を境に、急激な人口減少と高齢化が進み、北良治町長の思いを反映した全国でも先駆的な保健・医療・福祉を一体的に考え、高齢化が進む地域のニーズに沿った町づくり

奈井江町

7月5日、総務福祉常任委員会の所管事務調査である「福祉・医療施設について」現在課題である中間施設の今後を考慮し、サービス付高齢者向け住宅（以下サ高住とする）の

を手がけています。

奈井江町は町立病院の三階を、一般病棟（46床）からサ高住16室（名称「あんしん」）に変更するという全国で初めての取り組みを行っています。

また、人口減に伴う大幅な病棟見直しを行い、住宅・医療・福祉を一体的に捉えて運営しています。

厚生省・保健所・北海道建設部・消防署などの申請や許可を得るための作業、地元医師会並びに近隣医療機関の理解と協力体制を得るためにご苦労されたことを聞き、公営住宅だけで考えるのではなく、町立病院の運営を含めた医療事業のあり方を考えさせられました。

先進地、奈井江町と芦別市を視察してきました。

今後の公営住宅のあり方と密接な関係もあり、全議員で視察することとし、研鑽を積みました。

芦別市

社会福祉法人芦別慈恵園は、先進的介護事業の取組として、昭和45年、特別養護老人ホームを開設しました。

当時、多床室が当たり前という時代の中で、利用者の立場にたった介護方法を徹底した理念の基で運営していることは、目を見張るものがありました。

また、利用者をお客様として扱い、平成13年に全面改築を行った後も、快適な暮らしを考え徐々に改修し、生活感が出る工夫をされていました。今後は、利用者ニーズにあわせて、特養を6部屋減らし、サ高住を9部屋新設（平成30年4月稼働予定）します。



▲特別養護老人ホーム「芦別慈恵園」

利用者へのサービス・ケアの徹底、介護従事者への専門的な知識と技術の向上を法人理念の基に展開しており、第三者委員や町内会長など地域ぐるみで考え支援体制の構築を常に進めていました。本町の特別養護老人ホーム芳生苑も、生活環境としてのプライバシー、家族が気兼ねなく通える施設としての改修、利用者の住みやすい環境や介護従事者の働きやすい環境などの整備も、今以上に急がれることを実感してきました。

全道町村議会議員
研修会に参加



▲全道議員研修会の様子

7月4日に、札幌コンベンションセンターで開催された全道町村議会議員研修会に参加しました。慶応義塾大学経済学部教授の金子 勝氏より「トランプ政権と日本経済―地域経済への影響は？」と題された講演を受けた後に、日本放送協会解説副委員長の島田敏男氏より「日本政治の昨日・今日・明日」と題された講演を受けました。

4月27日開催

第2回町議会
臨時会

【議会議事条例の一部改正】

（全員賛成可決）

各常任委員会の委員定数を6人から5人とするなどの改正を可決しました。

【専決処分した事件の承認】

（全員賛成可決）

平成28年度一般会計補正予算について、地方交付税及び各交付金などの増額に伴い、積立などの専決処分が承認されました。

【一般会計補正予算】

（全員賛成可決）

アスベスト粉じん濃度測定調査委託について、役場庁舎排煙部分に係る調査に伴い、21万3千円の増額補正を可決しました。

新たな各委員会の構成

委員会名	委員長	副委員長	委員
総務福祉常任委員会	中原 浩一	窪田 裕二	佐々木広行 酒向 勤 下條 美恵
産業教育常任委員会	石田 利美	伊藤 明	佐々木広行 金谷 浩幸 谷口 勝弘
議会運営委員会	酒向 勤	金谷 浩幸	佐々木広行 中原 浩一 石田 利美
議会広報委員会	谷口 勝弘	下條 美恵	酒向 勤 伊藤 明 窪田 裕二

常任委員、議会運営委員、議会広報委員は任期が2年とされており、平成29年第2回町議会臨時会において委員の指名が行われ、委員長・副委員長は互選により次のとおり決定されました。

今期から常任委員会委員の定数が6人から5人へ変更されました。

なお、改選後の任期は平成29年5月7日からとなっています。

5月23日開催

第3回町議会
臨時会

【一般会計補正予算】

（全員賛成可決）

士別市の総合庁舎改築に伴う消防本部庁舎の整備に係る費用を負担する債務負担行為（限度額1,200万円）を可決しました。

主な質疑

問

庁舎建設の入札と供用の開始はいつ頃か。

消防署長

6月に入札の告示をし、9月に落札者が決定する。

同月に仮契約を締結し、10月に本契約を締結する。

引越しは平成32年の1月から約2ヶ月間予定しており、同年3月から運用を開始する予定である。

表紙の写真

あふれる笑顔

毎月第1土曜日に開かれている恵みが丘自治会「生きがいサロン」の「コマ」。

1時からと聞いていたが、予定時刻の30分前には皆さん集まって和やかに談笑されていた。



町民インタビュー 聞かせて

“塩狩太鼓保存会 創立40周年を 迎えて”



町のイベントには欠かせない団体、塩狩太鼓保存会の会長 田中雅之さんにお聞きしました。

🎤 **会長が太鼓を始めたきっかけは？**

旧和寒高校農業科の部活(郷土芸能部)です。

3年生の時、部員が女子ばかりで男が一人になったときは、辞めようかと思ったこともありました。

🎤 **現在の会員数は？**

保存会は12人、少年団が18人です。

🎤 **少年団結成のきっかけは？**

会員が9区の子どもたちに教えたのをきっかけに、子どもの健全な育成を目的として、町全体で取り組もうと、保存会創立の3年後に立ち上げました。

🎤 **活動の内容は？**

毎週月・木曜日、恵み野ホールで練習しています。



す。

町のイベントの他、地域学校支援ボランティアに登録し、小学生に教えています。

🎤 **何曲くらい叩けるの？**

少年団は3〜4曲練習しています。

保存会は10曲弱叩けますが、他にお披露目していない曲も5曲あって、今30代の会員が中心となり新曲に取り組んでいます。

🎤 **創立40周年を向かえて、何か考えてる？**

新曲のお披露目をした

いところですが、特に考えていません。

今後、曲のアレンジもしたいので、形の違う太鼓や小道具、高台など、欲しいものがいろいろとあります。

🎤 **今後の活動は？**

地域に根ざした活動をこれからも続けていきます。

会員はまだまだ募集しています。

少年団は小学生から、保存会は高校生からです。今更って言う人も多いのですが、興味のある方は年齢関係なく、是非練習を見に来てください。



広報委員の一言

夏のイベントも終了していき、間もなくお盆を迎えることになりました。

人口の急激な減少と、高齢化の避けることの難しい時代の波が押し寄せています。

大通り商店街という場所も無くなるのでしようか。

街づくりの先生の話では、人口が減っても活気のある街には賑わいの中心があるそうです。

毎日集えるサロンのようなものかもしれません。

子供達にも解放されることもあるかも知れませんね。

一年がとても早く、間もなく農家供物の収穫の時を迎えます。

街づくりも、スピード感をもって種をまいて行かなければと思うこの頃です。

(勤)